

児童福祉施設心理職連続研修

—社会的養護の施設で働くやりがいと困難さを語らい合う集い—

開催日時 : 2022年11月17日（木）～2023年3月9日（木）（全5回）
（各回とも） 13:00～15:00

企画委員会 : 児童福祉・子育て支援委員会

開催方法 : オンライン開催

◆この研修会のお申込みについて◆

この研修会はWEBからのお申込みはお受けしていません。次ページに記載の参加要件を必ず確認いただき、ご希望の方は、メールにて下記の要領でお申込みください。

送信先 : kouza@jsccp.jp

件名 : 【児童福祉施設心理職連続研修申込】

メール本文への記入事項 : ①氏名、②臨床心理士登録番号、③連絡先電話番号、④勤務先、⑤「参加要件確認済み」 を
ご記入ください。

申込締切日 : **2022年10月26日**（先着10名 定員になり次第締切といたします。）

申込締切以降に参加可否通知メールをお送りします。参加可の方へは併せて、参加費入金および、事前課題のご案内をいたします。

主催

一般社団法人 日本臨床心理士会

◆参加要件◆

◆社会的養護の施設（乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設・母子生活支援施設・自立援助ホーム・児童家庭支援センター）で常勤・非常勤の心理職として働く、心理職経験年数通算5年以下の臨床心理士で、一般社団法人 日本臨床心理士会の会員。

なお、定員は先着10名ですが、同一施設からの参加は1名に限ります。先着順により参加できなくなる場合がありますので、予めご了承ください。

◆以下の5回の研修会にすべて参加することが可能なこと

【第1回】 2022年11月17日（木） 13：00～15：00

【第2回】 2022年12月12日（月） 13：00～15：00

【第3回】 2023年 1月17日（火） 13：00～15：00

【第4回】 2023年 2月 9日（木） 13：00～15：00

【第5回】 2023年 3月 9日（木） 13：00～15：00

なお、参加費（5回分で15,000円）は申込時に一括してお支払いいただきます。

※継続的に話し合うことを通してグループとして成長していくことを意識しているため、単回での参加申込は受け付けません。

◆Zoom（カメラオン）で受講することが可能なこと

なお、毎回2つのブレイクアウトルームに分かれてグループディスカッションを行いますので、予めご承知ください。

◆事前課題として、所属施設の情報等を記載する「フェイスシート」、参加者それぞれの思いや考え等に関する「アンケート」を提出すること。

なお、事前課題の詳細は、参加申込み受付完了の通知の際にお示しします。

◆企画主旨◆

職場やチームの中で若手の臨床心理士が地歩を築く苦労はどの職域でも共通して見られる悩みですが、施設臨床の現場では以下のような特色があります。

- ・ 愛着障害・複雑性 P T S D・神経発達症等を持つ子どもとの関わりの難しさ
- ・ 生活担当職員が中心となる場での多職種連携の難しさ
- ・ 心理職が雑務を担当する低賃金の汎用職員になりかねない待遇面の困難
- ・ 職域や勤務形態を超えた心理職同士の連携の難しさ

社会的養護の施設に心理職の人件費がつくようになって約 20 年が経ちましたが、ひとり職場で孤立を深め、職業的アイデンティティや将来設計を確立することが困難になり、最終的に離職を余儀なくされる若手の臨床心理士は後を絶ちません。

これまでも日本臨床心理士会では児童福祉領域における心理職の重要性を強く意識し、他の委員会との合同研修を実施するなど、現場職員の専門性の向上を図ってきました。しかし現状を鑑みるに、全国一括の大規模研修を中心とした研修方法が若手の臨床心理士の抱える課題に十分に応えられていたのか再考を要するのではないかと考えます。

そこで、小集団によるパイロットスタディ的な連続研修を試行し、地元でのネットワーク形成に寄与する、若手の臨床心理士をよりサポートできる研修を模索したいと思います。

〈目 的〉

- ①参加者が「感じ、考え、選び取る力」を取り戻し、より主体的にキャリア形成していけるようになること
- ②今ある繋がりの中から自身のサポート源となるものを見出し積極的にそれを活用できるようになること

〈方 法〉

- 教える側と教わる側に別れて行う従来の研修とは異なる、より互惠的で双方向的な学びを得られる場として機能できることを目指します。
- 具体的には、よく似た境遇の仲間同士の対話を通じて、参加者が連帯感や様々な「気づき」を得ていけることが取り組みの核となります。

〈受講にあたっての注意事項〉

※ 参加者間の意見交換を円滑にするための事前課題として、勤務する施設の情報等を記載する「フェイスシート」および各人の思いや考え等に関する「アンケート」の提出を求めます。

※ 取り組みの成果を明らかにするため、各回終了後および全日程開始前・終了後にそれぞれアンケートを実施します。また、回答いただいた内容を最終的に報告書としてまとめ、「参加者意見」という形で匿名で紹介したいと考えています。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

◆ 開催内容

第1回 2022年11月17日（木）13:00～15:00

13:00～15:00	テーマ	「援助対象（入所児童やその家族）との関わりについて考える」
	講師	話題提供者兼ファシリテーター：綱島庸祐（児童養護施設鹿深の家/委員） ファシリテーター：吉沢伸一（ファミリーメンタルクリニックまつたに/委員） 司会：平井正三（御池心理療法センター/委員長）
	内容	施設入所する子どもたちは、児童相談所による児童虐待対応相談件数全体の3%未満に過ぎない、いわゆる「選りすぐり」です。何らかの虐待を受けた経験や、障がいを持っている子どもたちも少なくなく、また、ほぼ例外なく外傷的な分離を体験しています。 こうした子どもたちとの関わりは、えてして難しいものになりやすく、手応えの希薄さから心理職が自信喪失に陥ってしまう場合も少なくありません。しかしながら、「この仕事を続けていこう！」と思えるような最大のエネルギーをもらえるのもまた援助対象となる子どもやその家族との関わりを通じてである場合が多いのではないのでしょうか。 この回では、そうした子どもをはじめとする援助対象との関わりにおける悲喜こもごもを仲間たちと共有する中で、自分のところを見つめ直し、ゆとりを取り戻す機会になると感じられるような、安全感のあるグループ経験を目指します。



第2回 2022年12月12日（月） 13:00～15:00

13:00～15:00	テーマ	「同僚（主に生活担当職員）との関わりについて考える」
	講師	話題提供者兼ファシリテーター：杉山史恵（児童養護施設和敬学園） ファシリテーター：綱島庸祐（前出/委員） 司会：川野由紀子（東京都北児童相談所/委員）
	内容	子どもの育ちにとって最も重要なのは生活担当職員による養育に他なりません。また、職種を超えて施設職員同士が互いに手を携え合いながら養育に当たることができれば、子どもたちはそこから「人と人はこんな風に協力し合うことができるのだ」という大きな学びを得るかもしれません。 しかしながら、入所児童の背景の重さに比べて職員側のマンパワーは慢性的に不足しており、関わる大人たちは常に強いストレス下に置かれています。そのような状況で、いくら若手の臨床心理士がコンサルテーションを実施しても上手くいくことはそうそうなく、逆に「心理職ってなんぼのもん？」という視線を向けられて不全感を募らせる形にもなりがちです。 この回では、そうした同僚（主に生活担当職員）との関わりについて話し合います。より良い連携の形を模索していくために必要な心の余裕を生み出す一助となれば幸いです。



第3回 2023年1月17日（火）13:00～15:00

13:00～15:00	テーマ	「上司との関わりや待遇面について考える」
	講師	話題提供者兼ファシリテーター：鳥居勇（児童養護施設美谷学園） ファシリテーター：綱島庸祐（前出/委員） 司会：川野由紀子（前出/委員）
	内容	施設の他の専門職（生活担当職員や栄養士など）と比べて、心理職は仕事の内容をイメージしづらいところがあります。そのため、まわりから過剰に理想化されたり、逆に単に人手不足を補うための労働力として便利屋扱いされたりしてしまうこともあります。 また、児童心理治療施設を除き、施設心理職は一人職場である場合が大半で、後ろ盾が弱く苦勞する場面が多い上に、何か問題が起こった際の最終的な責任の所在についてもきちんと組織図に明示されていないようなことがしばしばです。 「組織に守られている」という感覚の薄いこうした環境で働き続けることは、給与の低さや休みの取得しにくさなども相まって、必ずしも簡単なことではありません。 そこでこの回では、上司との関わりや待遇面といったテーマについて話し合い、働き続けるために必要となる安心感をいかに担保していくか、アイデアを交流させたいと思います。



第4回 2023年2月9日（木）13:00～15:00

13:00～15:00	テーマ	「心理職同士の関わりについて考える」
	講師	話題提供者兼ファシリテーター：菅野恵（東京都内児童養護施設） 司会兼ファシリテーター：吉沢伸一（前出/委員）
	内容	心理職同士の関係というのは、受けてきたトレーニングの内容など、共通したものも多いため、貴重な「つうかあ」の間柄になれる可能性を秘めています。しかしその一方で、価値観や考え方の違いがそのまま関係に軋轢をもたらし、深刻な分裂にまで発展してしまうようなケースもあります。 同じ施設の心理職や近隣の施設の心理職、児童相談所の児童心理司や入所する子どもたちが通う学校のスクールカウンセラーなど、一人職場であることが多い施設心理職にとって、同じ（もしくは近接の）領域で働いている心理職の仲間が増えるのは非常に心強いものです。 そこでこの回では、心理職同士の関わりというテーマについて話し合い、身近な心理職との関係を改めて見直す中で、既存のサポートネットワークがよりよく機能していくための糸口を掴むことができたらと考えています。



第5回 2023年3月9日（木）13:00～15:00

13:00～15:00	テーマ	「施設心理職としてのアイデンティティを築いていくことについて考える」
	講師	話題提供者兼ファシリテーター：高木理恵（児童養護施設れんげ学園） ファシリテーター：吉沢伸一（前出/委員） 司会：平井正三（前出/委員長）
	内容	施設心理職として働き始めたとき、子どもとの間に生じる多重関係のテーマ（心理療法を行いながらセラピー場面以外でも接触すること）に戸惑いを覚える人は少なくないのではないのでしょうか。どのような臨床現場でも援助対象となる人たちや活動するフィールドの特徴およびニーズに合わせて関わり方を工夫していく必要がありますが、まだ十分に心理職としてのアイデンティティを確立していない若手にとってこれは簡単なことではありません。駆け出しの施設心理職からよく聞く「自分が心理職なのか生活担当職員なのか分からなくなる」といった悩みなどは、そうした難しさを端的に物語っていると思います。 こうした施設心理職としてのアイデンティティを築いていくことをめぐる内容が最終回のテーマです。様々な困難さに翻弄される中でいつの間にか失ってしまっていることも多い「感じ・考え・選び取る」という一連の営み、すなわち援助者としての主体性を取り戻し、願わくば仲間たちと「施設心理職はやりがいのある重要な仕事である」ということを再発見できるような機会になればと思っています。 一方で、これまでのディスカッションを踏まえ、「自分には続けられないのではないか」と強く実感される方も出てこられるかもしれません。そうしたメンバーが無理にグループに適応したり、あるいは排除されたりしないこと、そして、自分の率直な実感を語り、今後の臨床キャリアについて考えられる場になることも同時に大切にしたいと考えています。



※ 開催内容は変更されることがありますのでご了承ください。

全てのオンライン研修・受講していただき、受講合計時間が5時間以上となった方は資格更新ポイントの付与対象者となります。

【ご参考までに】
…参加決定後に提出していただく「フェイスシート」です。
ご参加が決まりましたら、書式を送信いたします。

【フェイスシート】
「社会的養護の施設で働くやりがいと困難さを語らい合う集い」

事務局の方で
記入します。

氏 名(ふりがな)		性 別	経験年数 (通算)	グループ	
()			施設心理職経験年数	年	
			現施設経験年数	年	
			心理職経験年数	年	
施設名(ふりがな)		いずれかに✓をしてください			
()		☐ 乳児院 ☐ 児童養護施設 ☐ 児童心理治療施設 ☐ 児童自立支援施設			
		☐ 母子生活支援施設 ☐ 自立援助ホーム ☐ その他 ()			
定 員	在籍児童数	担当児童数	担当児童の年齢層	施設形態	地域小規模児童養護施設
名	名	名	歳～歳	☐ 大舎制	☐ 有 ☐ 無
虐待経験のある児童(実人数:計 名) ※重複している場合はすべてにカウントしてください				☐ 中舎制	分園型小規模グループケア
身体的虐待: 名、心理的虐待: 名、ネグレクト: 名、性的虐待: 名				☐ 小舎制	☐ 有 ☐ 無
発達障害のある児童(実人数:計 名) ※重複している場合はすべてにカウントしてください				精神科・心療内科等に通院している児童	
知的障害: 名、自閉スペクトラム症: 名、ADHD: 名、LD: 名				名	
職員構成(役職、職種、人数など)				心理療法担当職員の勤務形態	
施 設 長		心理療法担当職員		☐ 常 勤 ☐ 非常勤 ☐ その他 () → 常勤以外の場合 週 回 その他 ()	
個別対応職員		看 護 師			
家庭支援専門相談員		事 務 員			
自立支援担当職員		栄養士・調理師			
児童指導員・保育士		児童支援担当職員			
病休中: 名、産休・育休中: 名					
あなたの業務内容を教えてください。					
働く上で困ったことが生じたとき、どのように対処しているか教えてください。					
施設心理職同士の公的・私的集まりがあるか教えてください。					
① 公的集まり ☐ 有 ☐ 無 【名称: 】					
② 私的集まり ☐ 有 ☐ 無 【名称: 】					
参加するにあたってこの会にあなたが期待していることを教えてください。					
連絡先(勤務先)					
住所: 〒					
TEL: 〇- FAX: 〇- E-mail:					

◆ オンライン研修会（Zoom）申込時の注意事項（１）

- ・ 当研修会は、Zoomというツールを使用します。Zoomミーティングを経験されている方を対象にしています。Zoomの使用方法やビデオ・マイクの操作を理解していることが必要です。
なお、当会では、Zoomや機材に関するお問合せには対応いたしかねます。
- ・ パソコンもしくはタブレットでの参加をお願いします。
スマートフォンでの参加も可能ですが、資料を画面共有した際に文字が見えにくい場合等があり推奨しません。
- ・ 有線または無線ブロードバンド回線、ビデオ・マイク（内蔵もしくは外付け）が必須となります。
- ・ 当研修会は、双方向的な学びの場という企画主旨であることと、資格更新ポイントの付与を前提としていることから、ビデオは常に「オン」の状態を受講いただきます。
- ・ また、マイクは通常「ミュート」とし、必要に応じて「ミュート」を解除していただきます。
- ・ 参加者のパソコン等の性能（CPU等）やインターネット接続回線（Wi-Fi電波が弱いなど）によっては、正常に受講いただけない場合があります。必ず、事前にご確認ください。
参加者の機器やインターネット接続、環境を原因とするトラブルなどが発生した場合には、オンライン研修会・開催中の対応はできません。

◆ オンライン研修会（Zoom）申込時の注意事項（2）

- ・ 初めて Zoom を利用する方は、Zoom アプリケーションをインストールしてください。
https://zoom.us/download#client_4meeting
また、アプリケーションインストール後に1度接続テストをしてみてください。
<https://zoom.us/test>
- ・ Zoomのシステム要件は、[こちら](#)を参照ください。
- ・ 参加するだけならば、Zoomアカウントの登録は不要です。
- ・ 研修会当日に、Zoomのシステムや当会に起因するトラブルが原因で中断・中止した場合、時間の延長・別日程での開催のいずれかの対応を行います。
なお、当会はそれによって生じる損失の責任を負うことはできません。
- ・ 受講者1名につき1端末で参加してください。複数端末で受講されていることが確認された場合、強制退出していただくことがあります。
- ・ 1名分の申込みでの複数名の聴講は禁止します。
- ・ 参加者による録音・録画は如何なる場合も禁止します。

◆ 申込から参加までの流れ

- ・ 申込メールを受け付けた後、締め切り後に参加可否のお知らせメールが届きます。
参加可否のお知らせメールには、付番された研修会・講座番号、受付番号や申込時の入力内容が記載されるとともに、参加費のお支払い方法等をお知らせしています。
なお、事前登録が完了するまでメールを保管してください。
- ・ お申込みから1週間以内に参加費を指定の口座にお振込みください。
- ・ 参加費のお振込みが当会に通知されるまでには、最短で4営業日を要します。
- ・ 参加費の振込みが確認された後、「オンライン研修会参加のための事前登録のお願い」のメールをお送りします。
オンライン研修会参加のためのZoom事前登録を行っていただく必要がありますので、メールに記載されている期日までに事前登録の手続きをお願いします。
- ・ 事前登録を行っていただくと、数日以内に「招待メール」が届きます。
この「招待メール」に記載の手順により当日オンライン研修会に参加していただくことになりますので、研修会が終了するまでメールを保管してください。
- ・ 研修会開催日の1営業日前を目処に「招待メール」を再送信いたします。
先の「招待メール」を紛失した場合は、こちらを使用して当日ご参加ください。

※研修会を受講するにあたって、一部のメールが迷惑メールに入る事があります。

事前に下記メールアドレスを迷惑メールに入らない様に設定をお願いします。

- ・ no-reply@zoom.us
- ・ kouza@jscpp.jp